

新病院開院に向けた抱負

「診療部のメッセージ」

新病院の開院に向けた宍粟総合病院スタッフの抱負を紹介します。
今月は、診療部(常勤医が在籍している6診療科)からのメッセージです。



地域医療の担い手として

内 科



現在、内科では一般診療のほか、消化器内科にも力を入れており、内視鏡的逆行性胆管膵管造影（注1）での胆管炎治療、超音波内視鏡（注2）による胆管や膵臓の精査、内視鏡的粘膜下層剥離術（注3）や内視鏡的粘膜切除術（注4）による早期食道癌、早期胃癌、早期大腸癌の切除を行っています。新病院では、県立はりま姫路総合医療センターや神戸大学附属病院と連携しながら、最新医療の提供ができるように努めています。

また、患者さんの退院に向けては、市内や市外の近隣開業医の先生方への逆紹介や往診を通じて、患者さんが地域で切れ目なくフォローアップを受けていただけるよう対応しており、新病院開院後も現在と変わりなく、近隣開業医の先生方と良好な関係を築きながら、患者さんが安心して受診していただけるよう、地域医療の担い手として、取り組んでいきます。

注1 口から内視鏡を入れて、胆管や膵管の出口から胆管や膵管を造影する検査。

注2 特殊な胃カメラを使った超音波検査で、胆管や膵臓、胆のうなどをお腹の中から調べる検査。

注3 早期消化器癌が対象である治療法で、内視鏡を用いて癌のある部分の粘膜下層までを剥離し、癌を一括切除する。

注4 内視鏡を使って、胃や大腸にできたポリープを切除・治療する。

外 科

宍粟の健康寿命、延伸めざす

今後10年、西播磨地域の消化器癌患者はなだらかに減少し、その後減少幅が大きくなると推測されますが、当科で最も多く扱っている大腸癌では、良性疾患（注1）も含め、20年後も8割程度、手術を要する患者さんがおられると見込んでいます。

新病院では、これまでと同様に神戸大学からのスタッフ支援のみならず、最新情報も共有し地域格差を埋めて、消化器や乳腺の手術、抗がん剤治療を行っていきます。

外傷を含む良性疾患にも広く対応し、一部の疾患や治療においては、県立はりま姫路総合医療センターとの連携でシームレス化（注2）を進めていきます。また、リハビリテーション栄養（注3）を駆使した周術期管理（注4）と近隣開業医との連携強化により宍粟の健康寿命延伸をめざします。

患者さんは高齢化し、手術後の回復には時間を要します。このような地域医療構想に基づいた新病院では、計画している急性期病床の減床と地域包括ケア病床の増床は理に適っており、地域包括ケア病床を増床することで、早期退院をめざしながらも、一方では症状が不安定な時期の患者さんへの対応も迫られると考えています。



注1 悪性疾患（癌など）とは異なり、増殖が遅く、もしくは止まっている疾患（ポリープなど）。

注2 継ぎ目のないという意味で、複数のサービスを容易に利用できること。

注3 障がい者や高齢者の機能、活動、参加を最大限発揮できるような栄養管理を行うこと。

注4 主に外科領域において、手術目的で入院した患者に行う周術期（手術が決定した外来から入院、麻酔・手術、術後回復、退院・社会復帰までの患者の一連の期間）中の処置の流れのこと。

最新機器でさらに細かい異常発見へ

放射線科



放射線科の主な仕事は、他科の医師から依頼のあったCTやMRI検査を読影^(注1)して異常所見を指摘することです。患者さんと直接接する機会が少ないので、放射線科の業務には馴染みの無い方も多いと思いますが、最近、放射線科を題材にしたマンガがテレビドラマ化や映画化されたので、少し親近感を持ってくださった方もおられるかもしれません。近隣開業医の先生方から検査の依頼を頂いて、読影結果をお返しすることもあります。緊急を要するような病気が見つかった場合には、ご紹介いただいた開業医の先生の承諾を得たうえで当院で診察を受

けて、高度急性期病院に救急搬送させていただくような場合もございます。

新病院ではさらに細かい異常が発見できるよう最新の機器に更新して、放射線科としても全力で対応して地域の方々の健康に貢献していきたいと考えています。

注1 レントゲンやCT、MRIなどの検査によって得られた画像から所見を読み、診断をすること。

小児科

私(前田医師)は、1999年に北病棟が新設されるのとはほぼ同時期に赴任しました。それから程なく産科が併設され、合わせて新生児室のスタートとなりました。当時の宍粟郡には産科も小児科も1つの医院しかありませんでしたが、市民アンケートの結果、分娩施設と小児科が欲しいという要望が特に多かったため、当院では主に産科・小児科の病棟として、北病棟が整備されました。

子育て世代が定住する必要条件は、仕事・インフラ・子育て環境とされています。宍粟市のような人口4万人程度の自治体で、産科も小児科も通常規模で運営され、小児科医が365日診療している病院は、全国的に見ても稀です。そういった意味でも、良き子育て環境の一つを提供しているものと自負しております。

現在、当科は常勤医2人体制で診療を行っておりますが、医師は高齢化し、新病院に向けて次世代の医師を探すことが急務であると考えます。若い医師を引き付けるような魅力的な新病院となるよう、取り組んでいきたいと思っております。

次世代につなぐ魅力的な病院へ





宍粟総合病院からの別冊です。
広報紙からはずしてご覧ください。

アットホームな環境づくりを

産婦人科



産婦人科では、妊娠・出産に関する産科、悪性・良性腫瘍の手術や治療を行う婦人科、その他年齢に応じた女性の健康に関わる思春期や更年期などの女性のためのトータルケアを行っております。近年、産科領域ではより専門性を高めるための胎児超音波検査（注1）の研鑽や体制の充実化を図ることとし、婦人科領域では新技術、抗がん剤治療、特に女性ヘルスケア領域では子宮脱に対する腹腔鏡下仙骨腔固定術（注2）を積極的に行っております。コロナ禍も相まって全国的に出産数は減少していますが、当院で

は2021年度はおよそ240名の赤ちゃんが誕生しました。腹腔鏡下手術（注3）をはじめとした婦人科手術は150件と例年どおりでした。

新病院においても、これまでと変わらず、地域に根付き、アットホームで受診するとほっとするような環境づくりをめざし、スタッフ共々取り組んでまいります。ちょっとした悩みや症状でも気軽にご相談ください。

注1 妊娠初期の頃から胎児の様子を伺える検査方法。胎児の内臓などの形態異常や機能異常がないかを確認する。

注2 膣から子宮や膀胱、腸が飛び出る病気を治す手術。

注3 腹部にカメラを入れて行う手術。

泌尿器科

安心して受診できる体制を

泌尿器科は、尿道・膀胱・前立腺などでよく知られていますが、副腎、腎臓、精巣など腎周辺から外陰部（注1）まで広い範囲の疾患の治療を行っています。

当院の主な手術は、前立腺肥大症（注2）、膀胱がん、尿管結石、包茎、陰嚢水腫（注3）の手術を行っています。入院期間は疾患により異なりますが、2日～7日で退院できます。市外からも、診察や手術希望で当院を受診される方も多く、必要に応じて他の診療科や近隣の開業医とも連携を図りながら診療を行っています。患者指導については、病状・生活スタイルに合わせた指導を行っています。

新病院へ移行しましても、市民の皆様にとさらに安心して受診いただけますように体制を維持していきます。



注1 生殖器のうち体外に現れている部分を指す。

注2 前立腺が肥大することにより尿道が圧迫されて、排尿障害をきたす病気。

注3 陰嚢に液体が溜まり、陰嚢が腫れる病気。

次回は、新病院開院に向けた抱負「看護部からのメッセージ」を紹介します。